

■カリキュラム改訂について

グリーンアジアプログラムでは、学生の負担および費用面の問題を考慮して2018年度以降のカリキュラムを全面的に改定致しました。

実践英語科目（6・7期国内生対象）

2018年度以降は開講しない為、不足単位は総理工科目「英語コミュニケーション（2単位）」「英文ライティング（2単位）」から必要数を受講して代替とする。

実践産業科目（主に6・7期国内生/留学生対象）

- 実践産業Ⅰ：国内短期研修（IFCの企画に基づく。実践産業Ⅱとは異なる行先）
 実践産業Ⅱ：国内短期研修（IFCの企画に基づく。実践産業Ⅰとは異なる行先）
 実践産業Ⅲ：外部講師（千代田化工建設（株））による講義（前期）
 実践産業Ⅳ：外部講師（渡邊智明先生）による講義（後期）

※2019年度以降は、以下から必要となる単位数を選択する。

- 1) 2018年度の実践産業Ⅲ相当の講義（外部講師（千代田化工建設（株））を開講予定
- 2) 総合理工学府要項別表第1「共通科目」のうち、「安全衛生教育」「英語コミュニケーション」「英文ライティング」を除く科目。
- 3) 総合理工学府要項別表第3「グリーン理工学国際コース・授業科目」の、「Industrial structure of Japan」。
- 4) 他学府・他専攻での開講科目
- 5) 集中講義（但し他の科目群と重複して数えることは認めない）
- 6) 大学院基幹教育科目
- 7) 上記のほか、GAが認めた科目

社会/環境/経済システム学科目（主に6・7期国内生/留学生対象）

- 環境システム学Ⅱ：FARZANEH HOOMAN先生による講義（後期）
 環境システム学Ⅲ：渡辺貴史先生による講義（前期）
 環境システム学Ⅳ：外部講師（川本充先生）による講義（前期）
 経済システム学Ⅰ：外部講師（堀史郎先生）による講義（後期）

※2019年度以降は以下から必要となる単位数を選択する。

- 1) 社会システム学相当の講義（外部講師）を開講予定
- 2) 他学府・他専攻での開講科目
- 3) 集中講義（但し他の科目群と重複して数えることは認めない）
- 4) 大学院基幹教育科目
- 5) 上記のほか、GAが認めた科目

プラクティススクール（6・7期全学生対象）

2018年度に必ず実施。次から一つを選択。

- ① 外部機関や企業が費用をサポートするインターンシップを活用
- ② グリーンアジアが費用を負担してインターンシップを実施（2018年度内のみ）

講究Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ（研究室ローテーション）（6・7期生対象）

異なる2つの研究室で3ヶ月間の研究を行う。

研究成果は5000ワードの講究レポートとしてまとめ、専攻の修士論文試問会で発表する。

QE（Qualifying Exam）（6・7期生対象）

- 5期国際学生：2018年夏に実施。
 6期国内学生：2019年冬に実施。内容を簡略化し、GPA審査と修論試問会のみとする。
 6期国際学生：2019年夏に実施。同上。
 7期国内学生：2020年冬に実施。同上。

国内インターンシップ（全学生対象）

従前同様、外部資金によるインターンシップもしくは学内企業セミナー等へ2回参加する。



国際インターンシップ (全学生対象)

以下から一つを選択。

1. 外部機関や企業が費用をサポートするインターンシップを活用。
2. 研究室が費用を負担してインターンシップを実施。
3. 国際会議で2回発表する。(オーラル/ポスターどちらでも可)
4. グリーンアジアが費用を負担してインターンシップを実施。(2018年度内のみ)
5. 2018年度以降は、国際インターンシップのプレゼンテーションは行わない。レポートのみとする。
※ 2018年度中に履修することを強く推奨する。

- ・九大が開催する国際会議を含め、日本国内で開かれる国際会議でも可。(例えば、毎年開催地を日・米・欧とローテートしている国際学会など)
- ・国内学会の「English session」などは国際インターンシップ相当とする国際会議とは認めない。
- ・CSS等、日本国内のみで開催される九大ないし関連組織が主催する学内行事は、国際インターンシップ相当とする国際会議とは認めない。(CSS等への参加は、国際演習Bの履修として認める。)
- ・学会参加を選択した場合、経費(旅費・参加費)はGAからサポートしない。

リサーチレビュー&プロポーザル(RR&P)(博士研究I)

5期国内生: これまでのRR&Pと同じ。(研究レビュー&プロポーザルを作成し、口頭発表(2018年夏~秋に予定))

5期留学生: これまでのRR&Pと同じ。(2019年冬~春に予定)

6期全学生: 2019年度以降に、日本学術振興会特別研究員への申請を以てRR&Pの実施に替えます。採否は問いませんが不採択の場合は翌年も申請する。評価(成績報告)は指導教員が行う。

7期全学生: 同上。

博士研究中間発表(博士研究II)(全学生対象)

2018年度 : これまでの中間発表と同じ。(各専攻またはGAで発表会を開催する)

2019年度以降 : 指導教員/メンターに博士研究の中間審査として単位を発行してもらう。

博士論文研究(博士研究III)(全学生対象)

従前と同じで、博士論文作成に向けた日頃の研究活動に対して、指導教員が評価(成績報告)を行う。

研究指導演習(I)(II)(全学生対象)

従前と同じで、後輩学生への研究指導に関するレポートを提出する。

国際演習A(3期生・4期国内生対象)

3期全学生: 科学技術、社会、経済、環境あるいは政策の課題について調整、研究し、グリーンアジア自由課題論文を作成する。

4期国内生: 同上

※ 2018年度より、最終報告は論文誌(Evergreen等)への投稿を必須とせず、レポートでも可とする。

国際演習A(4期留学生・5・6・7期生対象)

以下から一つを選択。(第一の選択肢を推奨)

1. 所属する専攻が課す論文発表に加えて、国際的学会誌での英語査読論文を一つ発表する。著者の順位は問わない。この論文発表を「国際演習A(8単位)」として認める
2. メンター/指導教員の指示のもと、下記の選択肢から適宜に選んで「国際演習A」の単位とする。
 - ・追加の研究室ローテーションを行う。期間については特に定めない。
 - ・九大や企業で英語で行われる(研究に関しない)セミナーに参加する。(ICNERの講義も含まれる)
 - ・追加のインターンシップを行う場所(国内外)や期間は任意とするが、GAからの資金面での援助は行わない。
 - ・九大他学府で開講されている英語の講義への参加。

国際演習B

3期生全員: 従前と同じで、10月予定のGA国際セミナーに参加、発表する。

4期生全員: 従前と同じで、10月予定のGA国際セミナーに参加、発表する。また、企画運営を行う。

2019年度⇒不足単位分は国際会議・学会への参加で代替する。参加1回を以て国際演習B1~3のいずれかの単位とする。

5期生全員: 従前と同じで、10月予定のGA国際セミナーに参加、発表する。

2019年度⇒不足単位分は国際会議・学会への参加で代替する。参加1回を以て国際演習B1~3のいずれかの単位とする。

6期・7期生全員: 2019年度以降⇒不足単位分は国際会議・学会への参加で代替する。参加1回を以て国際演習B1~3のいずれかの単位とする。

補足: CSS等、九大ないし関連組織が主催する学内行事も、国際演習B相当とする国際会議に含める。

学会参加を選択した場合、経費(旅費・参加費)はGAからサポートしない。